

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 3 日作成)

小委員会名	熱環境シミュレーション小委員会		主 査 名：酒井 孝司 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熱環境シミュレーションのための先進アルゴリズムの検討・整理 ・ 熱環境シミュレーションのための解析コードの検討・整理 ・ 熱環境シミュレーションに関わるアルゴリズムおよびデータの体系化 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 酒井孝司(明治大学), 尾崎明仁(京都府立大学), 赤司泰義(東京大学), 石野久彌(首都大学東京), 宇田川光弘(工学院大学), 内海康雄(宮城工業高専), 永村一雄(大阪市立大学), 隈裕子(湘南工科大学), 武田仁(東京理科大学), 永田明寛(首都大学東京), 林徹夫(九州大学), 藤井晴行(東京工業大学), 松本真一(秋田県立大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	教育研究用熱環境シミュレーションソフトウェアの研究・開発 WG 目的：学生やエンジニアを対象とした熱環境シミュレーションプログラムの整備		
2016 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s13/index.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 無し
講習会	1. 無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 46 回熱シンポジウム『新しい時代の熱環境デザイン～測定とシミュレーションによる設計・評価～』 資料名：同上 参加者数 92 名
大会研究集会	1. 無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	熱環境解析教育, 室内長波長放射交換の簡易モデリング, CFD を活用した熱環境解析について, 事例を収集し, アルゴリズムやデータの体系化に関する情報交換が実施され, 当初の活動計画を概ね満たす成果が得られた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 特になし

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価) 最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2016 年度は、伝熱小委員会との合同委員会を 3 回開催（4 回目を 3/7 に開催予定）し、熱環境解析教育、室内長波長放射交換の簡易モデリング、CFD を活用した熱環境解析手法等を対象に、以下の熱環境シミュレーションに関する手法について、事例を収集し、アルゴリズムやデータの体系化について議論を行った。</p> <p>室内長波長放射交換の簡易モデリング 物体正投影による受日射量算定と立体角投影による形態係数算定 ブラインドの熱解析モデル グレージング複合体近傍の熱・気流性状 ドア開閉に伴う室間換気量の数値的検討 自動ドアからの外気侵入解析</p> <p>当初の目的とした熱環境シミュレーションのための先進アルゴリズムの事例収集、教育手法の事例収集等を行い、議論を行った。また、本年度は、10/22～23 に、伝熱小委員会と合同で熱シンポジウムを岡山理科大学において開催し、92 名の参加者を得た。</p> <p>当初の活動計画を概ね満たす成果が得られたため、A 評価とした。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。